

* Volvo 製プロペラシャフトシールの交換

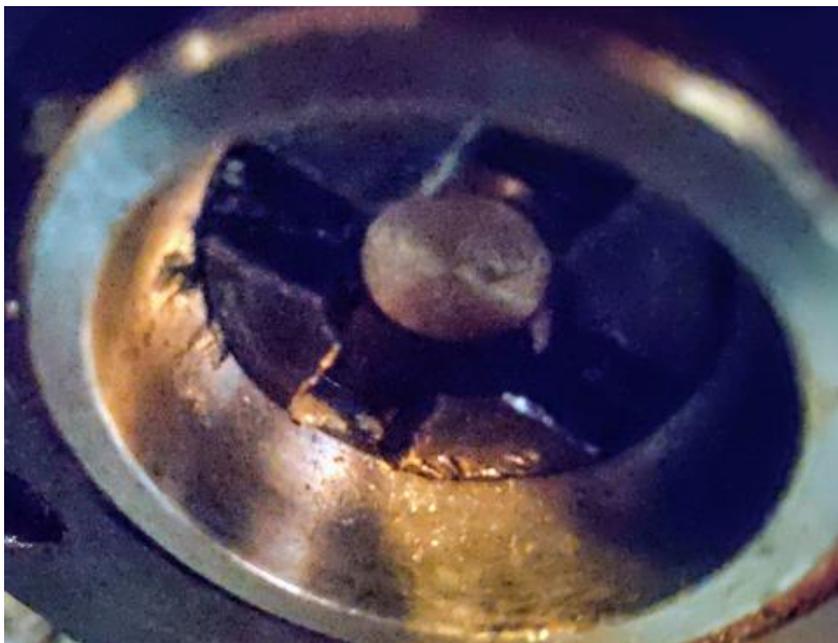
シャフトシールは古いグランドパッキン方式、PSS 方式、Volvo 製方式があるが、最近ではシンプルな Volvo 製が安価で人気だ、硬質ゴム製、5-7 年で摩耗するので要交換、定期的にグリスの注入が必要だ。

写真は 35 年前に進水したヨットのグランドパッキン方式だがパッキンが入ってなく、海水がダダ漏れで回していたらしく、フランジの錆びの状態は酷い！？これを Volvo 製シールに交換したいがシャフトのフランジ側ナットが固着して外れない！？また、船体側の硬質ゴムホースも固着してビクともしない！？



シャフトナットにネジロックが塗布されていて動かない！？ヒートガンで熱くしてネジロックを柔らかくして 24 mm ロングレンチに更に鉄パイプで長くして回したらなんとか外すことが出来た！特殊ナットなので特殊なボックス(自作)で対応するも、自作なので滑って回らなかった。

ここはナットに緩み止めボルトで揉んでいるのでネジロックは必要ないのだが・・・



六角ナットではなく、丸い特殊なナットを使う理由は??

多分六角ナットだと、六角の尖った部分にストッパーネジが当たると効かなくなる?!



更に難題が！？

フランジがシャフトに固着していて外れない、通常ならテーパーなので、ハンマーでショックを与えれば簡単に抜けるのだが・・・専用の油圧機器がないと無理かも！？

しかし油圧器具はここには入らない。

DIY 倶楽部のベテランが急遽専用治具を自作してくれた！



パイレンとロングメガネレンチで2人がかりでチャレンジするもビクとも動かない！？

5mmの鉄板が曲がってしまうほどの力をかけて、更にバーナーで熱く・・・



途中で諦めようかと思うほど手強いシャフトだった！



カセットボンバーナーでフランジを熱々にしたら、少しずつ緩んできた！

外れた～！パエリア鍋は熱々のフランジの受け皿！



これだけの工具を駆使した。固着した原因は、パッキンから溢れた海水がフランジに浸水して錆び付いたと推測する。



次の難題は船体側の受けの硬質ゴムホースの取り外し、カッターとワイヤーカッターで切り外した

が、またも難題、太すぎる！？

5mm は削らないと入らない、ペーパーの手作業になる！



40 番→400 番→800 番

2 日ばかりで削り、ヒートガンで熱くして、何とか入った！

更に難題！？シャフトのエンドのネジ切りが潰れてナットが入らない・・・

急遽、コーナンプロへ、16 mm 2 ピッチのダイスを購入して調整し、特殊ナットではなく、16 mm の六角ナットを入れることにした、ねじ止めのボルトで揉めるかが懸念。



芯出しが要らない位カップリングの状態が良い！

Volvo 製シールの付属ホースバンドはサイズが足りず、元々付いていたホースバンドを使用。

ストッパーネジは六角ナットの平部分に揉んでいて OK !

下架後のエア抜きも OK、



翌日のテストラン、機走時の振動は極小、帆走時のプロペラ遊転での振動も極小、しかも Nice sailing 🚢

フランジはあまりにも錆が酷いので新品をオーダー、高価(26000 円)だが大事なパーツだ！

しかし、下架後に新パーツが入手、残念だが取り付けられない！？



シャフトに取り付けたジックがカッタスベアリングに当たり、下げられず、
これでは交換は不可能！



次回の上架整備までおあずけだ！！